

令和 6 年度（2024）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

穴吹国際みらい専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 穴吹国際みらい専門学校 学校関係者評価委員会は、令和6年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

令和7年3月12日

学校法人穴吹学園 穴吹国際みらい専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて穴吹国際みらい専門学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹国際みらい専門学校が行なった教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2. 学校関係者評価委員会

(委員)

辻 芳子	企業等委員	社会福祉法人 幸栄福祉会 幼保連携型認定こども園 草戸こども園 理事長・園長
高橋 知恵	企業等委員	(株)クリエイティブ・ワイツー
田島 建彦	高等学校関係委員	元高等学校校長
山本 愛加	卒業生代表委員	
松木 鈴	卒業生代表委員	

(学校教職員)

福田 稔	穴吹国際みらい専門学校	校長
山下 保	穴吹国際みらい専門学校	副校長代理・教務部長
坂東 泰行	穴吹ビジネス専門学校	広報・就職キャリアセンター部長
藤井 智之	穴吹国際みらい専門学校	教務部課長

3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和7年3月11日(火) 17:00～18:30

開催場所 福山校入船校舎4階401教室

4. スケジュール

- ・校長挨拶・趣旨説明
- ・事業報告
- ・保護者アンケート結果報告
- ・自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)
- ・意見交換

1・事業報告

①資料確認

②学生動向（入学生数、在籍生数、卒業生数、休・退学率 等）について報告

1. 学生数報告

年度当初96名、退学5名、休学1名、退学率5.2%、年度末での在校生数90名
退学率3%未満の目標は達成できなかった。

2. 次年度学生数

出願65名、入学予定59名

新年度在校生数121名

こども未来教育学科 1年生14名 2年生14名 3年生11名

ブライダル・ホテル学科 1年生13名 2年生17名

国際ホテルビジネス学科 1年生28名 2年生24名

3. 令和6年度 就職活動について

卒業生数25名、就職希望者22名、内定者22名、就職希望者内定率100% 業界内定率95%
地元企業への就職が今後の課題となる。

4. 令和6年度資格取得報告

各学科の主要資格・検定取得率について

- ・こども福祉教育学科：保育士資格100% 幼稚園教諭2種免許100%
- ・ホテル・ブライダル学科：ブライダルコーディネーター技能検定3級41%
- ・国際ホテルビジネス学科：日本語能力試験N3以上63%

各学科目標検定を定めてはいるが、学生のレベルに応じて上位級への挑戦も指導している。

③活動紹介（HP・Instagram）

こども未来教育学科およびブライダル・ホテル学科ではInstagramを用いた学科紹介を積極的に行なっている。各学科のInstagram URLを案内。

2・保護者アンケート結果報告

こども未来教育学科：A・Bを選択しているということは満足度の現れだと考えられる。

学生と保護者のコミュニケーションがとれているのではないだろうか。

ブライダル・ホテル学科：Dを選択している項目について、改善が必要である。

こども未来教育学科とは反対に家庭内での情報共有が少ないのではないかと。

各学科アンケートの自由記入欄に記載がなかったことが残念である。

3・自己評価結果の説明・報告（自己評価報告書参照）

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和6年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果（総括）」、「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である
「D」不十分である の4段階にて評価。

①資料確認

②自己評価報告書

重点目標）

1. 出願目標 60 名とし、入学目標である 55 名を達成する。
2. 担任と管理職が連携の上、学生、保護者とも早期に対応し、退学率 3 %未満を達成する。
3. 学科ごとに教育内容の更なる充実を図り、業界並びに地域社会から必要とされる人材を育成する。
4. 新しいことへ積極的に挑戦する一方、業務の効率化・簡略化も進め、教育力と収益力を向上させる。

（目標達成のための具体的事業計画、行動計画）

1. OC における体験内容のブラッシュアップと学科の魅力を訴求するプレゼン力の向上により入学目標である 48 名を達成する。
2. 年間を通じて一貫した信念のある指導を行い、信頼関係の構築と保護者との連携強化により退学率 3 %未満を達成する。
3. 外部実習やインターンシップなどを有効活用し、業界内定を意識した進路指導により日本人・留学生ともに 2 月末までに内定率 100%、3 月末までにビザ取得 100%を達成する。

×項目の内容と改善点などについて主に報告

- ・3-11-d 県内の他の専修学校・各種学校と協力・連携した教育を行っていますか。

協力・連携というよりは、一つの学校としてより良い教育を目指している。

令和6年度に保育系学科の募集停止を行なった学校は30校となっており、来年度以降は20校の募集停止がすでに決定している。そのような状況の中で穴吹学園は地域に根差した保育者を養成したいと考え、募集停止は考えていない。さらに、こども未来教育学科では教員1名の採用が決まっており今後も教育内容の充実を図っていく。

- ・5-11-c 卒業生の能力向上のため、研修会等を行っていますか。

学校主催での研修会等は実施できていない。

- ・5-12-a 大学等卒業者の入学に際し、入学前の履修に関しての取扱いを学則・細則に規定し、適切に認定していますか。

大学との単位互換がなく、学則・細則に規定できていない。しかしながら、令和8年4月より学校教育法の一部改正により、単位制への変更が決定している。単位制となることにより、リスキリングやリカレント教育の充実を図ることができる。

補足説明

- ・1-2 社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いていますか。
職業実践専門課程の各種委員会をこども未来教育学科は実施している。
ブライダル・ホテル学科および国際ホテルビジネス学科も各種委員会は実施している。
- ・5-4 学生相談に関する体制は整備されていますか。
専門学校では努力義務とされているスクールカウンセラーを穴吹学園では配置している
- ・5-12-a 大学等卒業者の入学に際し、入学前の履修に関しての取扱いを学則・細則に規定し、適切に認定していますか。
学校教育法の一部改正について
趣旨：リスキリング・リカレント教育を含めた職業教育の重要性が高まっており、専修学校における教育の充実を図る。
概要：専修学校の入学資格について大学の入学資格と同様の規定とする。最低限必要な学習時間に関する基準を単位数により定めることができるようにする。専攻科を置くことができる。

(目標達成状況)

1. 入学目標
令和6年度 入学目標達成（令和7年度生）
2. 退学率目標
令和6年度 退学率目標未達成
3. 就職目標
令和6年度 就職目標達成（国際ホテルビジネス学科：就職年次生なし）

(今後の課題・改善方策)

1. 次年度以降もOCにおける体験メニューと学科説明ツールのブラッシュアップを継続実施し、全学科これまで以上に捕捉率の向上に努め、入学目標を達成する。
2. 学生の言動に気を配り、問題の早期発見と組織による迅速な対応を行うことで学生との信頼関係を構築し、退学率3%未満を達成する。
補足説明：日々の満足度向上、支援が必要な学生へのサポートが必要。
3. 外部実習やインターンシップでの実体験を通じて学生の成長を促し、業界内定を意識した進路指導と合わせ、2月までに内定率100%を目指す。

4. 学科運営場所の変更について

令和7年4月より入船校舎の学科運営体系が変更となる。

①ブライダル・ホテル学科および国際ホテルビジネス学科は東町校舎での運営となる。

②東町校舎より穴吹ビジネス専門学校設置の医療事務・クラーク学科が移設される。

※令和7年度は学科運営場所の変更のみとなり、令和8年度入学生から変更先学科での設置学科として学生募集を行なう。

変更理由

①教育環境の改善：ドレスルーム、ホテル実習室の設置

②国際交流の促進：在留外国人数の増加に伴い、保育や医療の現場では外国人への対応が求められるようになっている。入船校舎には日本語学科が設置されていることから、日本人学生と留学生の交流を図ることが可能となる。

5. 意見交換・質疑応答

- ・保護者アンケートについて、ブライダル・ホテル学科ではD項目があることが気になる。D評価をするということは勇気がいることであり、気に掛ける必要がある。一方で、家庭内では子どもの意見を保護者がそのまま素直に受け止める傾向があるため、アンケート結果を気にしすぎてはいけない面もある。(田島委員)
- ・ブライダル・ホテル学科の設備に対してD評価があることは当然である。
ブライダル業界は華やかさが必須であり、ドレスルームが必要である。現状、校内にパーティーができるような施設がなく外部へ行って行なわなければならない。校内にそういった施設がないことが問題である。(高橋委員)
- ・保護者アンケートの自由記入欄に記載がなかったことはどのような理由が考えられるか？
設備など学校への不満があったのだろうか？(藤井)
ブライダル・ホテル学科の今年度卒業生はチームで何かをすることが苦手だった。個人の力、一人で作業を行なうことはするが、チームワークが必要なことが理解できない。コロナの影響により入学式などイベントの経験が少ないことが影響しているのかもしれない。そこで、授業時間として実習に出ることによりチームで作り上げるという経験をすることが大切だと考える。例えば、広島市内の専門学校では実習にでることで単位をもらい実習先からアルバイト代が支払われている。そのような経験を積んだ学生は即戦力として就職先を見つけることができている。企業連携をしたいと思っても、福山市内には結婚式場が少ないことが課題である。(高橋委員)
- ・ブライダル業界で地元就職を希望していても福山市内だけでは求人確保ができない。学生自身が県外就職を希望しないため、就職斡旋が難しい状況である。(坂東)
- ・実習を行なうことで、企業と学生それぞれの良さや悪さを理解できる。複数箇所ボランティアへ行き、その中から実習先を決めると良い。知識や情報を多く持つことで勤め先を見極める目が育っていく。(辻委員)
- ・キャリア・スキルアップのために学校から教えてもらいたい情報はるか？(山下)
研修会がオンライン化されたことにより他園との交流がなくなってしまった。保育業界で働く卒業生が集まり意見交換ができる場があると良いのではないだろうか。(山本委員)
- ・園の個性が重視される時代となった。以前は公開保育が行なわれ様々な園の様子や指導内容などを知り学ぶ機会があったが、現在はそうではない。どちらかというと似た考えや教育理念を持つ園が集まり、自分たちに欠けていることや取り入れるべきことを学んでいる。(辻委員)

- ・福山市内の高校生は岡山へ進学することが多い。岡山の学校から実習を受け入れ、就職につなげている。近年、支援が必要な子どもたちが増加しており、職員を増員することで臨機応変に対応している。保育業界は、キャリアアップでき、ライフステージの変化に合わせて働くことができるため、長く働いて欲しいと考えながら職員を育てている。(辻委員)

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、教職員一同、日々努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

以 上